

課題名	13 雑草防除及び植物生育調節	分類	①																		
	(2) 水稻採種圃における前年落下籾の除草剤による出芽(漏生)防止法																				
試験研究年次	1～2年 (完了)																				
<p>I 目的</p> <p>水稻採種圃では、作付け品種が前年と変わった場合、前年落下籾の出芽(漏生)が種子の異品種混入につながる。 最近の除草剤の中には、出芽抑制効果のほとんどない剤もかなりあるので、現在使用されている主な除草剤及び今後普及すると考えられる剤の出芽防止効果を把握し、採種圃における効率的な除草体系確立に資する。</p>																					
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験圃場 豊前分場7、8号圃(細粒灰色低地土、灰褐色)</p> <p>2 供試品種 コシヒカリ</p> <p>3 耕種概要</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th style="text-align: center;">1 年</th> <th style="text-align: center;">2 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 代かき期</td> <td>6月19日</td> <td>6月20日</td> </tr> <tr> <td>② 供試籾の播種期(代かき後)</td> <td>6月19日</td> <td>6月20日</td> </tr> <tr> <td>③ " の㎡当たり播種量</td> <td>1,000粒</td> <td>420粒</td> </tr> <tr> <td>④ " の播種法</td> <td colspan="2">催芽籾を0～2cmの深さに播種</td> </tr> <tr> <td>⑤ 移植期(手植)</td> <td>6月22日</td> <td>6月23日</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 供試除草剤 主要成果の第1表参照</p> <p>5 基肥 N, P₂O₅, K₂O 各 5g/㎡</p> <p>6 試験規模 1区1㎡、2区制</p> <p>7 前年落下籾の出芽(漏生)本数調査 移植後30日、1～3a調査した。</p>				項 目	1 年	2 年	① 代かき期	6月19日	6月20日	② 供試籾の播種期(代かき後)	6月19日	6月20日	③ " の㎡当たり播種量	1,000粒	420粒	④ " の播種法	催芽籾を0～2cmの深さに播種		⑤ 移植期(手植)	6月22日	6月23日
項 目	1 年	2 年																			
① 代かき期	6月19日	6月20日																			
② 供試籾の播種期(代かき後)	6月19日	6月20日																			
③ " の㎡当たり播種量	1,000粒	420粒																			
④ " の播種法	催芽籾を0～2cmの深さに播種																				
⑤ 移植期(手植)	6月22日	6月23日																			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>現在福岡県で使用されている除草剤の中で、出芽(漏生)防止効果の高い除草剤を次のとおり明らかにした。</p> <p>1 効果の高い除草剤</p> <p>(1) 移植前処理剤 ロンスター乳剤、デルカット乳剤</p> <p>(2) 移植後処理剤 クサホープD(ピラゾレート・プレチアクロール・ジメタメトリン)、バレージ(ジメタメトリン・プレチアクロール)、アクト(ピラゾスルフロンエチル・メフェナセト)、ワンオール(ピラジキソフェン・プレチアクロール)、ウルフエース(ピソスルフロンメチル・ベンチオカーブ・メフェナセト)、ザークD(ピソスルフロンメチル・タイムロン・メフェナセト)、クサカリン(ピラゾレート・プタクロール)、ソルネット(プレチアクロール)、センテ(プレチアクロール・クロメツップ) 各粒剤</p> <p>2 薬剤の特徴及び選定上の留意点</p> <p>(1) 移植前処理剤は出芽防止効果が安定している。</p> <p>(2) 移植後処理剤は処理時期が遅くなると効果が低下するので、移植後3日以内に処理する。ただし、メフェナセトの混合剤は使用基準内で早めに処理する。</p> <p>(3) 出芽防止効果と雑草防除効果をともに安定させるには、移植前処理剤と雑草の発生草種に適合した移植後処理剤の体系処理を行う必要がある。</p>																					

IV 主要成果の具体的データ
第1表 除草剤と籾出芽

(移植後27日及び31日調査)

薬 剤 名 (成分名)	処 理 期 時 期 移植前後・日	10a当たり 処 理 量 ml・kg	籾出芽数対無処理比		
			平1	平2	平均
無 処 理 (㎡当たり籾出芽数:本)	-	-	% 100 (573)	% 100 (176)	% 100 (-)
ロンスター	(-3)	500	t	1	1
デルカット	(-3)	500	t	3	1
デルカット 乳→ウルフ	(-3)→+7	500→3	0	-	0
デルカット 乳→サターンM	(-3)→+7	500→3	-	0	0
クサホープD	+3	3	0	0	0
"	+7	3	-	49	(49)
バレージ	+3	3	t	0	t
アクト	(+3)	3	3	0	1
ワンオール	+3	3	2	2	2
ウルフエース	(+3)	3	-	2	2
ザークD	(+3)	3	-	2	2
クサカリン	+3	3	3	t	2
"	+7	3	-	73	(73)
ソルネット	+3	3	3	0	2
ヒノクロア	(+3)	3	5	1	3
センテ	+3	3	9	t	5
マーシェト	+3	3	14	1	7
エックスゴーニ	+3	3	11	18	14
M0	+3	3	7	31	19
シーゼットフロアブル	+3	1000	-	20	20
サターンM	+3	3	-	26	26
ピリプチカルブ	+3	3	-	33	33

籾出芽数対無処理区比が51~100%の供試剤(粒剤、移植後3日・3kg/10a処理) サターン、フジグラス、ウルフ、パイサー、サンバード、ジメタメトリン(0.2%)、スミハーブ、エストラム、オードラム、ロンダックス、シリウス

注) 処理時期の()は試験設計の都合上、使用基準外の処理時期で検討した。
第2表 原種圃場における前年落下籾の10a当たり漏生本数(2年)

薬 剤 名	処 理 期	処 理 量	漏 生 本 数
デルカット(オキサリリン・ブタクロール) 乳	-4	500ml/10a	4本/10a
ワンオール(ピラキシフェン・プレチクロール)粒	+4	3Kg	12

注) 前年作付品種: ミネサビ、収穫: コバイン・ワラすき込み、前作: 小麦

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 稲麦の採種栽培基準に掲載予定。
- 2 純度の高い水稻種子生産に寄与できる。
- 3 除草剤の使用基準内で早めに使用する。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名 1~2年度 福岡県農業総合試験場 豊前分場普通作物及び、
農産研究所作物栽培研究室夏作試験成績書